

2025年12月16日

## 新規有効成分「シベンゾキサスルフィル」の 日本、韓国における農薬登録申請完了のお知らせ

日本農薬株式会社（代表取締役社長：岩田浩幸、本社：東京都中央区、以下日本農薬）は、自社で開発を進めておりました新規有効成分「シベンゾキサスルフィル/Cybenzoxasulfil」、（開発コード：NNI-2101、NRI-2211、以下「CBX」）について、日本では原体登録申請およびその含有剤の農薬登録申請、韓国では原体登録申請が完了したことをお知らせいたします。

CBXは、日本農薬が独自に創出した新規有効成分であり、野菜・果樹・茶・芝などの多くの作物に被害をもたらすチョウ目、コウチュウ目、ハエ目、カメムシ目を中心とした幅広い害虫に対して高い防除効果を示します。本剤は標的害虫の小胞性アセチルコリントランスポーターに作用し、これら作物群に適用される従来の殺虫剤と異なる新規の作用機構であることから、既存剤に抵抗性を示す害虫にも優れた効果を発揮します。また、浸透移行性に優れることから、茎葉散布に加え、セルトレイ灌注処理や苗地床処理などでも高い効果を示し、害虫防除の効率化や省力化に貢献する製品です。

日本向けには野菜向けに「（商品名）フォートレッド<sup>®</sup>Vフロアブル」、果樹・茶向けに「フォートレッド<sup>®</sup>Fフロアブル」、芝用途として「コアダル<sup>®</sup>フロアブル」の3製品を農薬登録申請いたしました。

韓国向けは原体登録申請が完了し、2026年初頭に製剤登録申請を計画しています。

なお、CBXは日本、韓国に加え、インドでも開発を進めており、近日中に登録申請を予定しています。2028年以降の登録認可と上市によりこれらの国々で30億円超の販売を見込み、さらに、その他の国々への展開や作物・使用方法の拡大を通じて、ピーク時には売上高50億円を目指し、日本農薬のグローバル基幹剤として育成を図ってまいります。

当社は、昨年度よりスタートした中期経営計画「Growing Global for Sustainability (GGS)」のもと、企業価値向上策の一環として研究開発強化に取り組み、本剤の開発を加速してまいりました。今後も研究開発型企業として、安心・安全かつ安定的な食の確保により豊かな暮らしを守り、サステナブルな社会の実現に貢献するという基本理念のもと、高品質かつ高い安全性を備えた新規農薬の創出に注力してまいります。

以上

### ■本リリースについてのお問い合わせ先

日本農薬株式会社 総務・法務部 総務広報グループ

Tel : 0570-09-1177